



第二中学校だより

R6 ミッション 「期待の登校、満足の下校」

令和7年1月号

↓二中ホームページ↓



話を聞く態度を養う

校長 小関 直

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

コミュニケーションの濃さ

昨年の新語流行語大賞は、「ふてほど」でした。???、聞いたことないなあ、というのが率直な感想。多くの方もそう思ったようで…。でも、私は観ていました。阿部サダヲ主演の「不適切にもほどがある!」を。宮藤官九郎脚本、時代背景が同世代ということもあり、珍しく1話から通して毎週観ていました。コンプライアンスやタイムトラベルなど、たかさんの話題がつまったドラマでしたが、時代背景として“そうだったな”と思ったことの一つが、今と比べてもっと“話をしていた”ということです。それこそ、良いことから悪いことまで、今だったらハラスメントになるようなことも含めて、よく話をしていたと思います。時代としては、現代の方が洗練されていて好きですが、コミュニケーションという観点では、80年代の方が濃かったと思います。良くも悪くも人間関係の築き方が大きく異なっていました。

子どものコミュニケーションの変遷

ここ十数年を振り返ってみても、きっちり話をしようというのを聞かせなければ秩序が維持できなくなるような反抗的な態度をとる子は本当に少なくなりました。最近、圧倒的に良い子ばかりが多いように感じます。高圧的な言動で指導する教員も絶滅危惧種に指定されたかの如く見かけなくなりました。

一方、学校に勤めていると、気になる点も見えてくるようになりました。それは、心の交流の深度や頻度が浅かったり、少なかったりすることです。仲良しだからこそ、喧嘩をしたり、言い争ったり、でも、お互いの気持ちが何となくわかるから仲直りをして…、という繰り返しが少なくなっているような気がします。多くの経験を積んできた大人からすると、「そんなことで」と思うくらいのことで仲違いをし、関係修復をすることもなく、友達であることをやめてしまうこともあるように思います。今時分の論調では、ネットや SNS の影響で…、ということになるのですが、それは違うと思います。ただ単に、コミュニケーションの基本である、「話を聞く」ことに不慣れなだけではないかと思ひます。

コミュニケーションの基本は「話を聞く」

今も昔も集中力が続かない子には「聞いている?」「ちゃんと聞いて!」という声掛けは行っています。それは幼少期から継続的に行われる指導場面でもあるので、学期毎の目標を書かせると何人かは「人の話をちゃんと聞く」と書きます。十数年前までであれば、教員の注意で、人の話を聞くという態度は身に付いていたと思ひます。それは、日

常生活においても、何でも言ってしまう荒いコミュニケーションがあったからだと思ひます。今もそうしたコミュニケーションで鍛えられている子が多数ですが、その比率は以前ほど高くはないと感じます。

話を聞く態度が身に付いている子は、話を聞いてもらえた経験が豊かな子でもあります。一方的な語りではなく、双方の会話によって、受容されたり、お互いに共感したりする心地よさを感じ取っているからこそ、聞き上手になっているのだと思ひます。乱暴な会話をすれば、嫌われてしまいますので、話し上手な子の真似をするようになります。以前は、それが自然と成り立っていました。

コミュニケーションの良さが広がる

社会変化とともに荒さが許容されなくなった分、今は、意図的にコミュニケーションの取り方を学ぶ機会を設けなくてはならなくなりました。以前担任していた学級では、次のようなことをよくしていました。

まずは、2人組になって、相手の話をよそ見や手遊びをさせながら聞かせます。すると、わざとやっているにもかかわらず「話す気がなくなる」「ムカつく」「悲しい気持ちになる」という反応が返ってきます。次に、友達を大切にしようという気持ちで聞くよう指示します。すると今度は、「安心して話せる」「話すことが気持ちいい」などの反応が返ってきます。

このような経験を意図的にさせると、話を上手に聞こうとする態度が子供たちの中で共有されます。担任としては、そのタイミングで、話の聞き方にはコツがあることを知識として教えます。そのコツとは、①相手の方に顔を向け②うなずきながら③場に応じて+α(笑顔、質問、メモ、相づち)を加えて聞く、ということです。※コツには諸説あり

具体的にコツを教えることで、実践の輪が広がり、学級全体に良い影響を与えます。「人の話をちゃんと聞く」という漠然とした目標がより具体的になりますし、その目標がやがて、「友達を大切にする」という友情にも発展します。ソーシャルスキルといわれる技術を意図的に身に付けようとする子が増えると、コミュニケーションの心地よさが広がります。

学年の総まとめ、3学期が始まりました。経験を意図的に積みあげ学校生活はもっと豊かで、楽しいものになると思ひます。2学期のいじめの認知件数は、61件でした。コミュニケーションの経験不足を表す数字でもあります。このことをどのように捉え、どのように教え育むかは我々大人の責任だと思ひますが、いかがでしょうか?

いじめの認知件数(2学期) 9月8件、10月28件、11月17件、12月8件 合計61件

※いじめの認知は、同様の行為を繰り返させないために行うもので、法律の定義に照らし合わせて積極的に行うものとされています。